

主事



浄寫

校合

發付

四月廿六日

年月日

主務

立案者

大臣 次官



軍務局長

造松謙良

經理局長



第一課長



指合案

佐鎮第一二七三号 雜船製造工レポート外
六庫私立製造所、委託ノ件認許ス
明治三十一年四月廿六日

海軍

徳政事考の巻末に永海書局

重訂の文中

一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに
一 本年に及ぶに於て其の製法を考ふるに

造船部

陸軍第三七三

本羊度之於新造之要スル雜船製造方私五

製造所、委託之義ニ付、依、續第一二七三號

ヲ以テ大臣ノ稟申、其屢雜船之内官房第一三

五二号ノ三及今第一六三三號

下ケ及隻數減少之義訓令相成ルヲ以テ付、等却

東亦之趣申了、承、右訓令ハ該商申書宛

送後本府、到着七、之付、固、了、隻數減

少等之義、承、知、不致、居、更、之、該、訓、令

之、基、キ、別、紙、稟、申、書、中、雜、船、隻、數、計

正、却、再、送、其、各、至、急、却、認、許、相、成、更

様、御、取、計、有、之、度、以、段、申、進、其、由

明治三十年四月廿日



男爵相浦 依世保 鎮守府司令長官
山本海軍省軍務局長殿

佐領第一二七三號

造船部



雜船製造ヲ私之製造所ニ委託セシメ
度義ノ旨稟申

廿九年六月官号第二六二四號又三十年四月

官号第一五五五號ヲ以テ雜船製造方御訓令

基キ本年年度、於テ新、製造着手可致モノ

五拾五艘外、本年年度、工事豫裁製造ノ可

要ヲ拾四艘有之然レ、皆造船廠工場ハ未タ完備、

不至到、店本年年度内、總數五拾五艘、雜船ヲ

竣工セシム見込無之、自本年年度ヨリ新、製造、

着手スルキモノ、内大記ノ井ノホリト外七席ノ以、際

内國私之製造所、委託製造セシメ、至急

宗

亮
月
日

日
月
年

本件

及同

下ナ

古成

社

出

り

信

印

此除

材料



本件雜船内官房第一
白同第一六之三
下十及隻敷減少
古成り年 平集一
多る官内有調一上更
出ま

佐也保原

重



造船科
造核科



平

6690

御認許相成度船舩造修試驗検査規則
第三十三号(依)此段(重中)也

明治三十二年四月五日

佐世保鎮守府司令官 吉野 相浦 紀 道



海軍大臣侯爵西郷從道殿

船 種艘數 所属廳名


ワヰンボート 三  隻ハ竹敷水雷敷設隊用 五隻ハ馬公水雷敷設隊用

スラムピンチース 一 竹敷水雷敷設隊用

練習用
スラムピンチース 一 佐世保海兵團用

運貨船  馬公水雷敷設隊用

五大力船 三 竹敷要港部知港事用

足場船  佐世保鎮守府軍港部用

傳馬船
通船

丁
 四隻、佐保軍港部、一隻、佐保海兵團二隻、佐保水雷敷設隊二隻、竹敷水雷
 敷設隊二隻、佐保水雷艇隊一隻、竹敷水雷艇隊用
 二隻、佐保鎮守府軍港部用

海軍

皇第 三六二号

主事

淨寫

發付

校合

六月五日

三十二年六月十日

主務

立案者

大臣 次官

軍務局長

造船課長

經理局長

海上

第三課長

相原

第一課長

廣瀬

指令案

呉鎮弁二三七八号 雜役船舟製造私主造船所、委託

件認許

但方社者地方制限施設が公証簿一限りである

明治三十二年六月廿日

海軍

經理局

軍務局

漢城第二七八號

大正... (Faint vertical text)

岩村

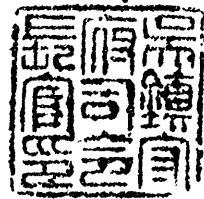
雜貨... (Faint vertical text)
 備海兵團其他... (Faint vertical text)
 常用通紙... (Faint vertical text)
 軍府造紙... (Faint vertical text)
 上... (Faint vertical text)
 競... (Faint vertical text)
 交... (Faint vertical text)
 置... (Faint vertical text)
 戸... (Faint vertical text)
 事... (Faint vertical text)
 工... (Faint vertical text)

上申仕奉已

明治三十一年六月十三日

吳鎮府司令官長官馬井士良啓

海軍大官侯爵西郷從道殿



三十年度に於て製造之雜役船舟中私造船所委託要る船舟

所屬廳

公称番號

種隻數

訖

事

兵海兵團

自才六三三
至才六三六

傳馬船

四

三十年度に於て製造豫算不足に付増額ヲ仰
クタメ今年度に於て着手セカリシモノ

今

第七四四
第七四五

令

式

舞鶴水雷隊

第七四三
第七四四

令

式

舞鶴水雷隊

自才五二〇
至才五二四

令

九

三十年度に於て製造豫算不足に付増額ヲ仰ク
今年度に於て着手セカリシモノ

吳鎮守府軍港部

自才七〇九
至才七一七

令

九

計

吳鎮守府軍港部

自才七一八
至才七二〇

通

船

貳貳

今

自才七四〇
至才七四二

令

四

海軍兵學校

自才七四六
至才七四七








令

九

計

九

軍 三十三号

<p>主事  主務 </p>	<p>淨寫 發日 15 六月廿 </p>	<p>三十年六月廿日 主務 大臣 次官   軍務局  立案者 </p>	<p>插合案 佐鎮第三六二号 水雷艇用帆布製端舟製送私之製造 所、委託件認許 明治三十四年六月廿日</p>
---	--	--	--

海軍

條第二二六二號

帆布製端舟内国私立製造所へ委託之義付稟申

一帆布製端舟

壹艘

右第十九号水雷艇用三十年八月官房第三一九四号認許中製造未済ノ公

一帆布製端舟

壹艘

右第十九号水雷艇用三十年九月官房第三四〇九号認許之公

当造船廠工事輻湊美付右製造方内国私立製造所へ委託セシメ度候条
御認許相成度極船造修試験検査規則第三十三条ニ據リ此廠稟申候也

明治三十一年六月廿一日

佐世保鎮守府司令長官男爵相浦紀道

海軍大臣侯爵西郷從道殿



海軍

宣統三年三月九日

8020

主事



校合

淨寫

發付 傳

八月廿



年月日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長

造船課長

海軍課長

※

指令案

吳鎮第三三三二二二號軍艦吉野 通船用「如ビット」

改造件認許了

明治三十二年八月廿五日

海軍

軍務局

0710 6020

英鎮第三二二二號

通船改造

通船改造ノ義府上申

客年官房第七六八號訓令ヨリ軍艦吉野
第式通船壹隻製造ヲ要シ候處從來テ
ギ一ニ候用セシテトビツ上ニ其巨離狭隘具構造薄
弱ノ為メ不適合ニ付別紙圖面之通リ改造ヲ
要シ候條着手方至急御認許相成度此旨

國而、智多色々

算金七百円工事日數三十日

吳鎮守府司令官富勇爵井上良馨



吳鎮第三二二二號

造船課長

通船改造ノ義旨上申

客年官房第七六八號訓令ヨリ軍艦吉野

第貳通船壹隻製造ヲ要シ候處從來テイニ

ギ一ニ使用セシテピツ上ニ其巨離狹隘且構造薄

弱ノ為メ不適合ニ付別紙圖面之通り改造ヲ

要シ候條着手方至急御認許相成度此旨

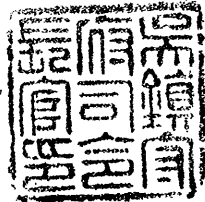
上申仕候也

但本件ニ要スル費概算金七百円工事日數三十日

間ノ見込

明治三十一年八月十日

吳鎮守府司令官富勇爵井上良馨



1120

海軍大臣侯爵西郷従道展覧

主事



淨寫

校合

發付日

九月十日



年月日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長



造船課長



指令案

横鎖第三二七号ノ運貨船製造方部外ノ
依頼ノ件認許ス
明治三十二年九月十日

海軍

三二七七 號

運賃所制を造方部外に作記の上申

本年度より船主の海運擴張費の増大を以て

造方部外に運賃所制を造方部外に作記の上申

船主の海運擴張費の増大を以て

造方部外に運賃所制を造方部外に作記の上申

上申

明治三十二年九月七日

船主の海運擴張費の増大を以て



日本郵船株式會社 西側 謹啟

海軍省

0714

主事



淨寫

發付日

校合

十月廿日



年月日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長



造兵課長



經理局長



第一隊長



第二隊長



指令案

橫領第三四八九号ノ岩碓船製造手緒明造航

所ノ依拠件認許ス

昭和三年十一月十日

海軍



横領第三十九號

品川靖明造船所(岩碎船製造)
依托ノ件ニ付上申

本年九月官房第廿三三五二號ヲ以テ當府軍
港部付属岩碎船及沉没船製不造方御認許
相成美垂爰目下當出造船廠工事多忙且テ拆付ノ
一ノ船其主ノ位置且無之ニ付右ノ内不取敢岩碎
船隻隻品川靖明造船所(製不造方御認許)
美條美條御認許相成度以段上申美也

明治三十一年九月廿四日

横須賀鎮守府司令長官殿

海軍大臣侯爵西鄉從道殿



海軍省

0716

主事



浄寫

校合

發付

十月廿日



年月日

主務

立案者

大臣 次官



軍務局長



造船部長



指令案

佐鎮中四三三四号ノ汽装水船之尾材等之製造
多様度受取事有、依此、件認許ス
明治三十二年十月廿日

海軍



海軍第四三三四號

造船課

汽装水船々尾材是ニ舵製造方横須賀鎮守府

一委託ノ義ニ付稟申

海軍擴張費ヲ以テ製造スル汽装水船々尾材是ニ舵ニ鑄鋼製ニテ

当造船廠ニ於テ製造致業候ニ付横須賀鎮守府ニ委託致度艦

船造修試験検査規則第三十二條ニ依リ此段稟申候也

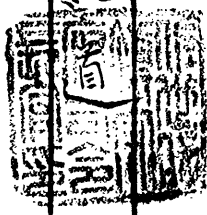
追テ本件ハ当造船廠長ト横須賀海軍造船廠長ト下地協

議済ニ候条此段為念副申候也

明治三十一年十月十九日

佐世保鎮守府司令長官男爵相浦紀

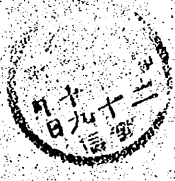
海軍大臣侯爵西郷從道殿



海軍

0718



局 着		局 發		人 信 受	
印 附 日	取 受 備 受 扱 者 信	第 第	第 第	第 第	第 第
	時 分	字 分	日 分	日 分	日 分
		報 報 局 局 第 第 着 着 第 第 報 報 局 局 第 第 着 着 第 第		報 報 局 局 第 第 着 着 第 第 報 報 局 局 第 第 着 着 第 第	
佐鎮田三二氏号、船尾林寺 横浜(急電)外、至急取印の事		日本政府電報掛紙 定指 事 記		日本政府電報掛紙 定指 事 記	

簿

帳

簿

帳

0719

0220

四四五

主事

校合

十一月一日

淨寫

發付

年月日

主務

立案者

大臣 次官

軍務局長

造船局長

經理局長

第三課長

課僚

指令案

横鎮第三九二号ノ水雷艇練習所付屬造船製
造事務本部長、委託、何認許ス

明治三十一年十一月一日

海軍

横鎮第三九一二番

水雷術練習所付届通船製造方

松本吉五郎、委託、付上申

本年六月官房、茅二五六三、辨ヲ以テ水雷術練習

所付届、テ、キ、通船、變更、件、認許、相成

美、處、所、届、造、船、敷、於、テ、工、事、多、忙、付、着、手

進、致、依、テ、三、浦、郡、浦、郷、村、字、荒、井、千、七、百、四、十、一

番、地、松、本、吉、五、郎、右、通、船、貳、隻、製、造、委

托、方、御、認、許、相、成、度、此、段、上、申、奉、也

明治三十一年十月廿七日

横濱賀領守府人長官 敷島貞規



海軍大臣侯爵西郷從道殿

追テ本父松本吉五郎ナルモノニ專ラ日本形
傳馬船及通船等製造ニ從事シ充分経
験アルモノト相認メ美條為念副申表也

五七五

主事



校合

淨寫

土見

發付



年月日

主務

立案者

大臣

次官



軍政部長

造船課長



巡視局長



第三課長



指令案

横鎮第三〇九九号ノニ泥受船製造方其庫
製作所、委託、御認許ス

明治三十二年十一月五日

海軍

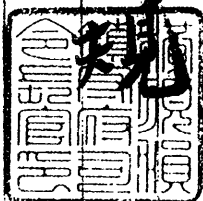
横鎮第三〇九九號ノ二

軍港部付属泥受船製造方芝浦
製作所、委託伴上申

本年九月官房芽三五五二號ヲ以テ認許相成
候軍港部付属泥受船製造方差急干張
処所属造船廠工事多忙ニテ急速着手難致
依テ東京芝浦製作所右泥受船貳隻製造
委託方御認許相成度此般上申矣也

明治三十一年十一月十五日

横須賀鎮守府司令長官 齋島貞規



海軍大臣 山本權兵衛 殿

軍